

週日の説教

金 大烈 神父 2011年8月25日(木)

《死の準備 ～全ての関わりを誠実に～》

私たちは、親から『準備』という言葉聞きながら育ちます。「準備が悪ければ、競争の世界で生き残れない。」などと言われて、今まで生きてきたと思います。そして皆様自身も、子どもや年下の人々にそのような言い方をなさっているのでしょうか。

私の個人的な意見かもしれませんが、世界のいろいろな社会の中で、日本のように『準備』が重要視されている国も少ないと思います。日本では、幼稚園の頃から『準備』の教育がしっかりされています。

私が渋谷教会にいた頃、教会に幼稚園がありました。その幼稚園で、感動したのか驚いたのか分からないようなことがありました。一人の子どもが靴を入れる袋を忘れて来て、母親が子どもを先生に預ける時に袋がないことに気づきました。園長先生は当然のように、「家に戻ってそれを持って来なさい。」と言いました。二人もごく当たり前に受け止めて、「分かりました。」と言うと帰って行きました。その時、「このくらいしっかり準備の教育がされていれば、やはり力がつくのだろう。」と思いました。同時に、「少し厳し過ぎるのではないか。」という気持ちもありました。

とにかく日本は、“準備が足りなければ、どこに行っても社会に適応できなくて外れてしまう” という厳しい社会です。“準備をしなければ試験に合格できない、準備が出来なければ人の上には立てない” という雰囲気の中でこの日本の社会は動いています。

しかし、これほどいろいろな面で準備がされているのに、一番基本的で大事なことの準備については、ほとんど口にされていないのではないかと私は思います。

今日の福音(マタイ 24:42 - 51)は、簡単に言えば、「いつも死の準備をなさい」という意味です。誰でも考えたくないような話ですよ。しかし、誰にとっても一番大事な、準備しなくてはいけないことが、この「死の準備」ではないでしょうか。結局、私たちが生きるのは死の準備のためです。死ぬことを準備するのが、ある意味で生きることではないかと私は思います。

今日の福音には、たとえ話として、「泥棒がいつやって来るのか分ったら、それは防がれるだろう。」と書いてあります。当たり前のことです。しかし私たちは、意識的にも無意識的にも、その考えを避けようとしていないでしょうか。私自身もそうです。もし私たちに、「毎日、死の準備をしなければならぬ。」という意識が少しでもあれば、いろいろな関わりやいろいろなことに対して、もっと誠実に、もっと忠実になる力が得られると思います。

信仰的に言えば、死は決して否定的なことではありません。イエス様のおっしゃっている死は、ある意味で私たちが完璧に一つになるための入り口なのです。ですから、最後に行かなくてはならないところを基準にして、全ての関わりに接するのがよいのではないかと私は思います。

「幸運というのは、準備した者のものである。」という有名な話がありますよね。『ラッキー』という言葉はあり得ないのです。私たちが何かするから幸運になるのです。

ありがとうございました。